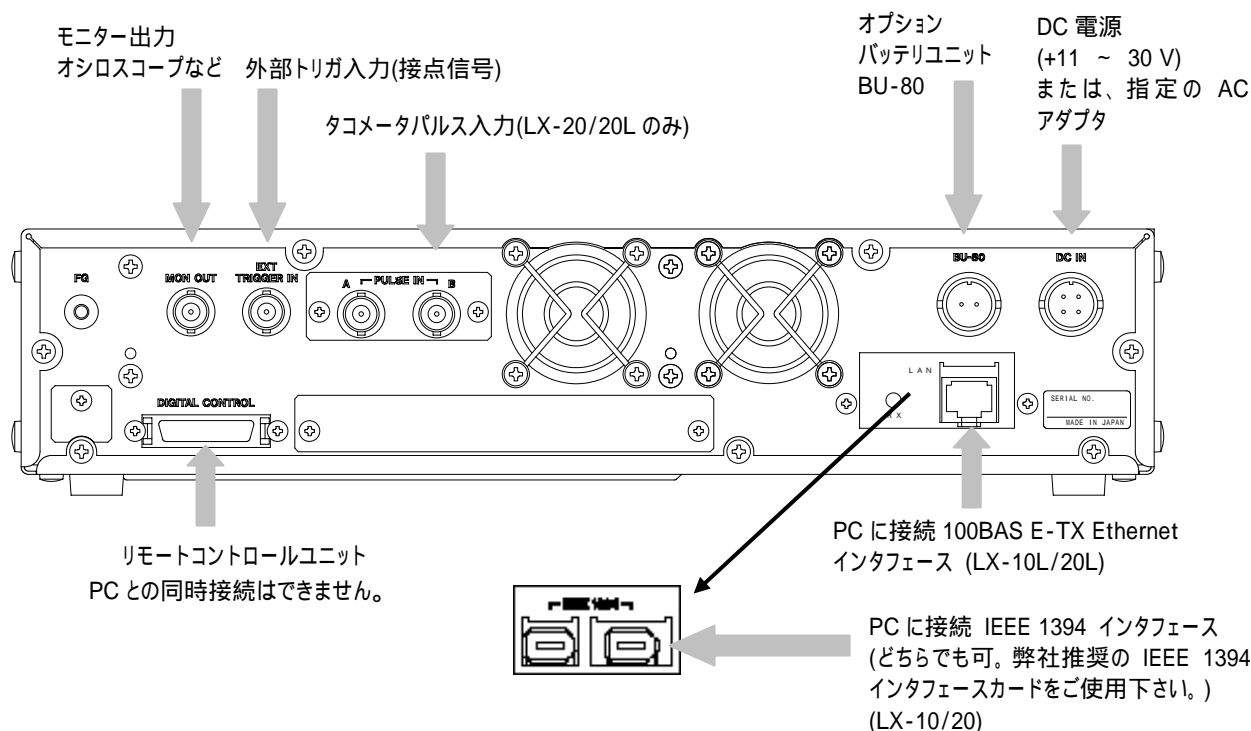
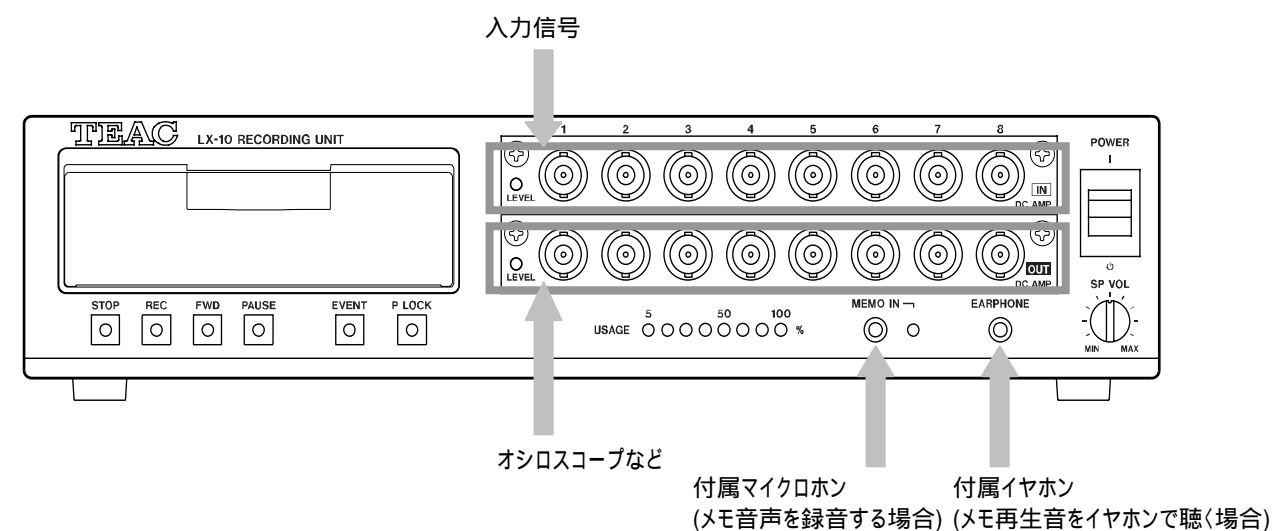


2 章 インストール

接続	2-2
接続に際しての注意	2-3
PC の要件	2-3
LX-10/20 IEEE 1394 パージョンのインストール	2-4
インタフェースカードをインストールする	2-4
OHCI ドライバをインストールする	2-5
LX Series デバイスドライバをインストールする	2-12
LX Navi のインストール	2-19
LX-10L/20L LAN パージョンのインストール	2-20
LX Navi のインストール	2-20
IP アドレスの設定について	2-21
プログラムの起動	2-22
LX Network ダイアログを表示せず直接 Navi を起動する	2-26
メディアの挿入とイジェクト	2-27
メディアの挿入	2-27
メディアのイジェクト	2-28
メディア内のデータについて	2-28
拡張ユニットについて	2-29
各スロットの設定について	2-29
拡張ユニット使用時のサンプリング周波数の上限について	2-29
電源の接続について	2-30

接続

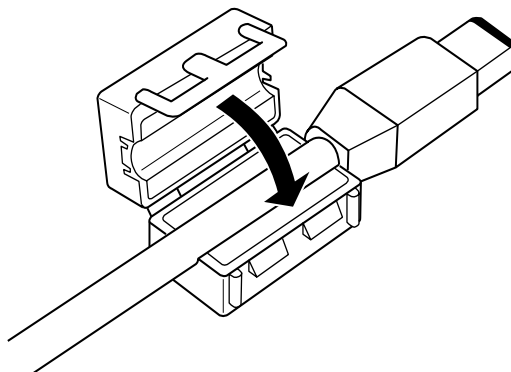


DC 電源電圧が +11 V 以下になると
電源電圧が 11 V 以下になると USAGE LED が点滅し、記録、再生は停止します。メモリー記録の場合は、すみやかにデータをメディアまたは PC にコピーして下さい。

接続に際しての注意

IEEE 1394 ケーブルへのコアの取り付け (LX-10/20 IEEE 1394 バージョン)

不要電波の放射を軽減するために、IEEE 1394 ケーブルの PC 側と LX 本体側との両端に、付属のフェライトコアを取り付けて下さい。



IEEE 1394 コネクタには PC のみ (LX-10/20 IEEE 1394 バージョン)

リアパネルの IEEE 1394 コネクタは PC との接続のみに使用して下さい。他の機器をデジチェーンで接続すると、仕様の性能を満たさないことがあります。

アースの接続

ノイズの混入を防ぐため、接続するすべての測定器と共通のアースをリアパネルの FG 端子に接続して下さい。

PC の要件

下の要件を満たす PC を推奨します。

OS: Windows XP / Windows 2000 / Windows 98SE / Windows Me

CPU: Pentium III 600 MHz 以上

画面解像度: 800 × 600 ドット以上

メモリー: 128 MB 以上 (Windows XP/2000 では 256 MB 以上)

HDD の空き容量: 2 GB 以上

CD-ROM ドライブ: プログラムインストール用

LX-10/20(IEEE 1394 バージョン)シリーズの場合: 指定 IEEE 1394 インタフェースカード

ノート PC 用(PC カードタイプ) ラトック製 CBFW3

デスクトップ PC 用(PCI バス用) ラトック製 PCIFW3

LX-10L/20L(LAN 100BASE-TX バージョン)シリーズの場合: PC オンボードの 100BASE-TX インタフェース

IEEE 1394 インタフェースカードは上記の指定品をご使用下さい。これらのカードは弊社でのみ扱っていますので、入手方法についてはお問い合わせ下さい。他の製品では正常に動作しないことがありますのでご注意下さい。インタフェースカードの導入に際しては、次ページ以降の説明にしたがってセットアップを行って下さい。

PC 側の 100BASE-TX インタフェースは PC カードタイプのものは使用せずオンボードタイプのものを使用して下さい。

OS により取り扱えるファイルサイズやファイル数が制限されることがあります。

LX-10/20 IEEE 1394 バージョンのインストール

LX-10/20 IEEE 1394 バージョンのインストールの概要を下記に示します。IEEE 1394 に必要なドライバのインストールは後述する各 OS のインストール手順に従って下さい。

1. インタフェースカードを PC に取り付ける
2. OHCI ドライバをインストールする
3. LX Series デバイスドライバをインストールする
4. LX Navi をインストールする

インタフェースカードをインストールする

ノート PC に取り付ける

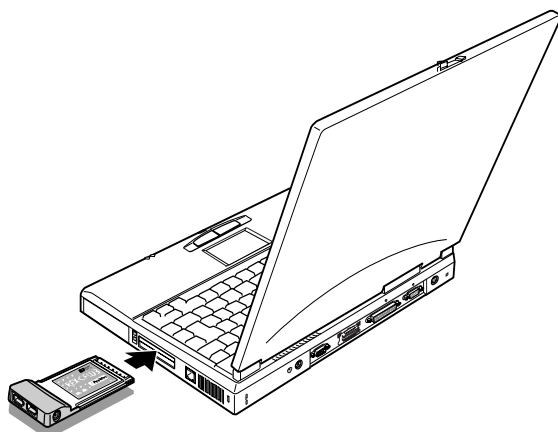
IEEE 1394 インタフェースカード CBFW3 を CardBus 対応の PC カードスロットに挿入します。

PC カードスロットの位置や PC カード挿入方法については、PC の説明書をご覧ください。

他の PC カードと同時に装着できない場合があります。

上側スロットに装着できない場合があります。

無理に挿入した場合、CBFW3 や PC 本体が破損する恐れがありますので、十分に注意して挿入して下さい。



デスクトップ PC に取り付ける

PCI タイプインタフェースカード PCIFW3 を PC の PCI スロットに装着します。

PCI スロットへの位置や装着方法については、PC の説明書をご覧ください。

PCIFW3 を PC の Low Profile PCI スロットに装着する場合には、標準ブラケットを添付の Low Profile 用ブラケットに付け替えて下さい。

無理に挿入した場合、PCIFW3 や PC 本体が破損する恐れがありますので、十分に注意して装着して下さい。

OHCI ドライバをインストールする

Windows 2000/XP の場合

次の画面例は、Windows 2000 のものです。Windows XP の場合も同様の操作を行って下さい。

1. CBFW3 を CardBus 対応の PC カードスロットに挿入、もしくは PCIFW3 を装着して PC を起動すると、Windows 標準のドライバが自動的にインストールされます。次の方法で、ドライバソフトウェアが正常にインストールされたことを確認できます。

2. [マイコンピュータ] から [コントロールパネル] をダブルクリックして開きます。



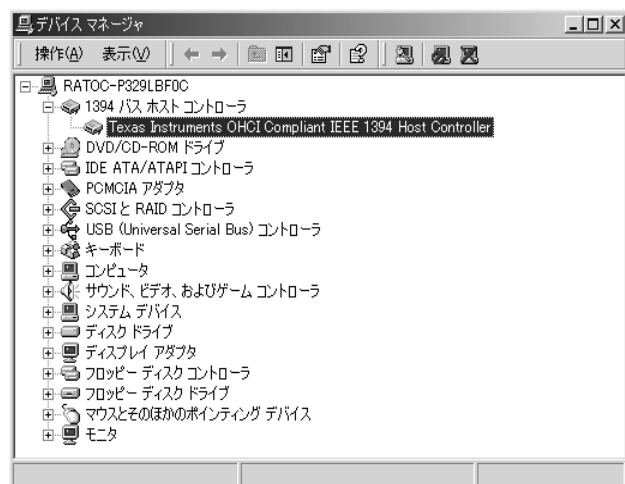
[システム] をダブルクリックして開きます。

3.



[ハードウェア] タブをクリックし、[デバイス マネージャ(D)] をクリックします。

4.



[1394 バスホストコントローラ]をダブルクリックし、「Texas Instruments OHCI Compliant IEEE 1394 Host Controller」が追加されていれば、ドライバソフトウェアが正常にインストールされています。

以上で OHCI ドライバのインストールは完了です。次に LX Series デバイスドライバのインストールに進んで下さい。

Windows 98SE の場合

1. CBFW3 を CardBus 対応 PC カードスロットに挿入、もしくは PCIFW3 を装着して PC を起動すると、下の画面が表示されます。



[次へ]をクリックします。

2.



「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する (推奨)」を選択し、[次へ]をクリックします。

3.



選択肢のチェックをすべて外して[次へ]をクリックします。

4.



「更新されたドライバ(推奨)」を選択し、[次へ]をクリックします。

5.



[次へ]をクリックします。

6.



[完了]をクリックします。以上でドライバソフトウェアのインストールは完了です。

次の方法でドライバが正常にインストールされたことを確認できます。

[マイコンピュータ]から[コントロールパネル]をダブルクリックして開きます。



[システム]をダブルクリックします。



[デバイスマネージャ]タブをクリックし、[1394 バスコントローラ]をダブルクリックします。上図のように「Texas Instruments OHCI Compliant IEEE 1394 Host Controller」が追加されていれば、ドライバソフトウェアが正常にインストールされています。

修正プログラムのダウンロード

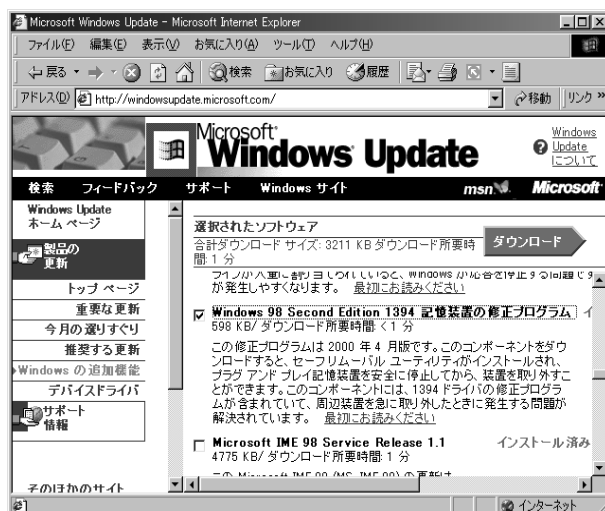
Windows 98SE をご利用の場合は、次に、Microsoft 社より公開されている 1394 記憶装置の修正プログラムを導入する必要があります。この修正プログラムにより、ハードウェア取り外しアイコンのアップグレードと 1394 機器を安定に動作させることができます。下記の手順で更新を行います。

1. [スタート] ボタンを左クリックし、Windows Update を選択して下さい。下図の画面が現れます。



[製品の更新] を選択して下さい。

- 2.



「Windows 98 Second Edition 1394 記憶装置の修正プログラム」にチェックし、ダウンロードして下さい。詳細は「最初にお読み下さい」をご覧ください。

以上で OHCI ドライバのインストールは完了です。次に LX Series デバイスドライバのインストールに進んで下さい。

Windows Me の場合

1. CBFW3 を CardBus 対応の PC カードスロットに挿入、もしくは PCIFW3 を装着して PC を起動すると、下の画面が表示されます。



[次へ]をクリックします。

2.



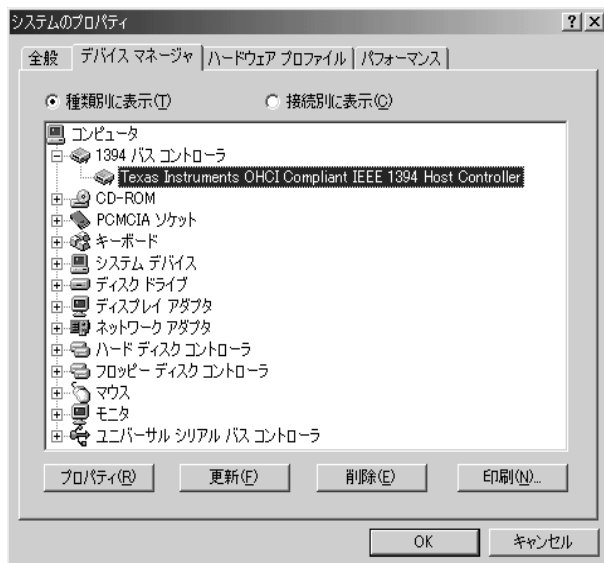
[完了]をクリックします。

3. 以上でドライバソフトウェアのインストールは完了です。

次の方法でドライバが正常にインストールされたことを確認できます。



[マイコンピュータ]から[コントロールパネル]をダブルクリックして開きます。[システム]をダブルクリックします。



[デバイスマネージャ] タブをクリックし、[1394 バスコントローラ] をダブルクリックします。上図のように「Texas Instruments OHCI Compliant IEEE 1394 Host Controller」が追加されていれば、ドライバソフトウェアが正常にインストールされています。

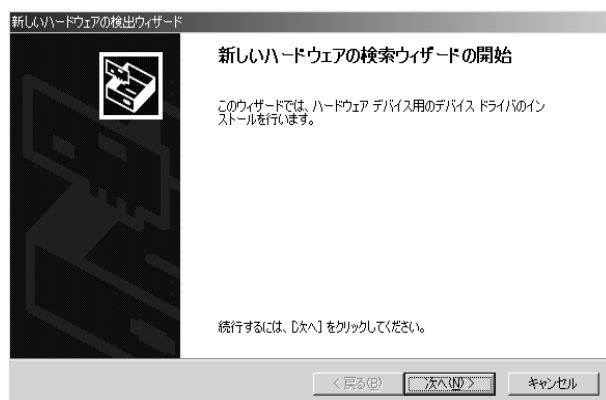
以上で OHCI ドライバのインストールは完了です。次に LX Series デバイスドライバのインストールに進んで下さい。

LX Series デバイスドライバをインストールする

Windows 2000/XP の場合

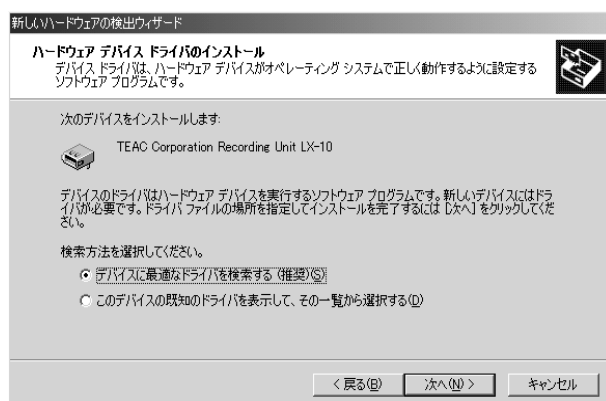
次の画面例は、Windows 2000 のものです。Windows XP の場合も同様の操作を行って下さい。

1. LX-10/20 を初めて PC に接続すると下の画面が表示されます。



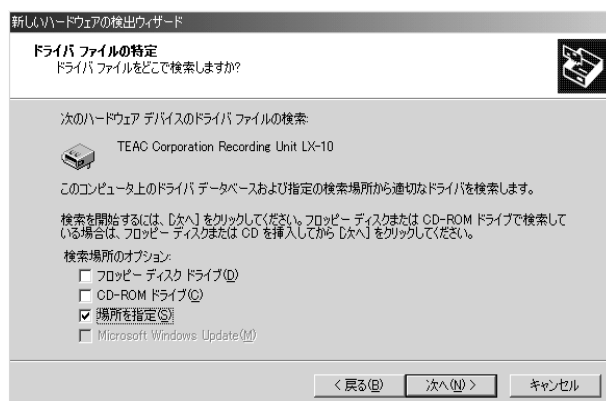
[次へ]をクリックします。

2.



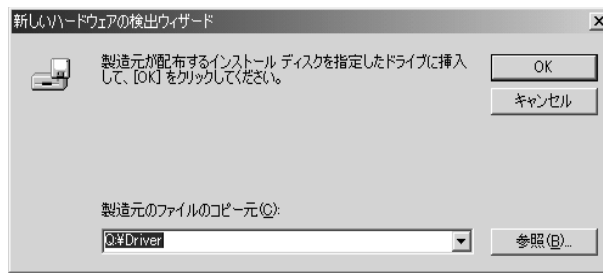
「デバイスに最適なドライバを検索する (推奨)」を選択し、[次へ]をクリックします。

3.



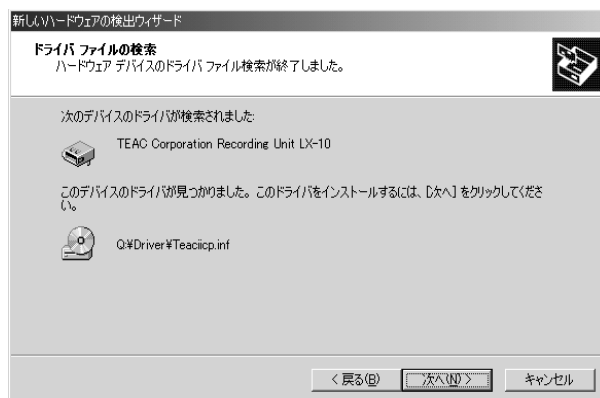
付属の CD-ROM をセットして、「場所を指定 (S)」にチェックを入れ、[次へ]をクリックします。

4.



CD-ROM をセットしたドライブの¥Driver フォルダを指定し、[OK]をクリックします。

5.



[次へ]をクリックします。

6.



上の画面が表示されたら[完了]をクリックします。以上でデバイスドライバのインストールは完了です。

Windows 98SE の場合

1. LX-10/20 を初めて PC に接続すると下の画面が表示されます。(下の画面が表示されなかった場合は、後述を参考にして下さい。)



[次へ]をクリックします。

2.



「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する (推奨)」を選択し、[次へ]をクリックします。

3.



付属の CD-ROM をセットし、「検索場所の指定 (L)」にチェックを入れ、CD-ROM をセットしたドライブの¥Driver フォルダを指定し、[次へ]をクリックします。

4.



[次へ]をクリックします。

5.



上の画面が表示されたら [完了] をクリックします。以上でデバイスドライバのインストールは完了です。

LX-10/20 を初めて PC に接続したにもかかわらず、「新しいハードウェアの追加ウィザード」が起動しなかった場合は、下記の手順でドライバをインストールして下さい。

1. [コントロールパネル]の[システム]を開き、[デバイスマネージャ]タブをクリックします。



「TEAC Corporation Recording Unit LX-10」を選択し、[プロパティ]をクリックします。

2.



[ドライバの再インストール]をクリックします。

3.



[次へ]をクリックします。

4.



「現在使用しているドライバよりさらに適したドライバを検索する (推奨)」を選択し、[次へ]をクリックします。

5.



付属のCD-ROMをセットし、「検索場所の指定(L)」にチェックを入れ、CD-ROMドライブ内のDriverフォルダを指定し、[次へ]をクリックします。

6.



[次へ]をクリックします。

7.



上の画面が表示されたら、[完了]をクリックします。以上でデバイスドライバのインストールは完了です。

Windows Me の場合

1. LX-10/20 を初めて PC に接続すると下の画面が表示されます。



付属の CD-ROM をセットし、「適切なドライバを自動的に検索する (推奨)」を選択し、[次へ]をクリックします。

2.

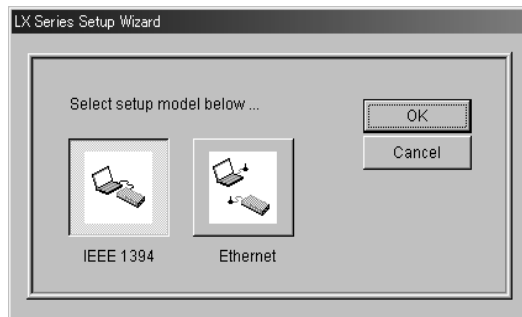


上の画面が表示されたら[完了]をクリックします。以上でデバイスドライバのインストールは完了です。

LX Navi のインストール

次の手順で付属ソフト LX Navi をインストールして下さい。

1. 付属 CD-ROM 中の「Setup.exe」を実行します。
2. 画面に表示されるメッセージにしたがってセットアップを進めます。



LX-10/20 IEEE 1394 バージョンの場合は、セットアップ途中に表示される上のダイアログで、**IEEE1394** をクリックし、**OK** をクリックして下さい。

3. インストール終了後、PC を再起動して下さい。

LX-10L/20L LAN バージョンのインストール

LX-10L/20L LAN バージョンのインストールの概要を下記に示します。

1. LX Navi をインストールする。
2. 使用する PC および LX-10L/20L の IP アドレスの設定を行う。

PC にオンボードの 100BASE-TX LAN インタフェースを使用して下さい。

LAN インタフェースをオンボードで標準搭載していない PC を使用する場合は、下記の LAN カードをご使用下さい。

アイ・オー・データ社製: CBET100-CL または

ブラネックスコミュニケーションズ社製: FNW-3603-TX

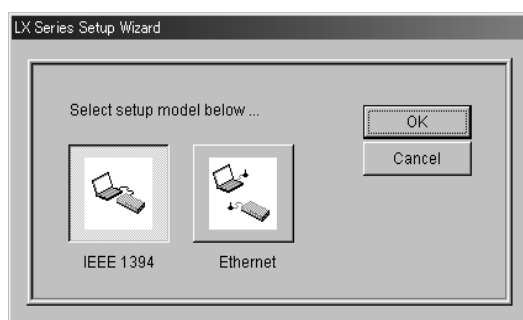
通信速度: 10 M、全二重固定

LX-10L/20L とはクロスケーブルを用いて 1 対 1 で接続して下さい。

LX Navi のインストール

次の手順で付属ソフト LX Navi をインストールして下さい。

1. 付属 CD-ROM の中の「Setup.exe」を実行します。
2. 画面に表示されるメッセージにしたがってセットアップを進めます。



LX-10L/20L LAN バージョンの場合は、セットアップ途中に表示される上のダイアログで、**Ethernet**をクリックし、**OK**をクリックして下さい。

3. インストール終了後、PC を再起動して下さい。

IP アドレスの設定について

LX-10L/20L をネットワーク接続して使用する場合は、下記の情報を元にネットワーク管理者様にご相談の上、設定を行って下さい。設定にあたっては、Windows ネットワークシステムの基本的な知識が必要です。

LX-10L/20L は工場出荷時には以下のように設定されています。必要に応じて IP アドレスなどの設定を行って下さい。

IP アドレス: 192.168.0.10
サブネットマスク: 255.255.255.0
ゲートウェイ: 0.0.0.0
DHCP クライアント: DISABLE

100 Mbps での通信を行うためには、LX-10L/20L から制御 PC までの経路に存在する全ての機器が 100 Mbps に対応している必要があります。また、ケーブルもカテゴリ 5 以上のものをご使用下さい。なお、通信品質の確保のために STP ケーブル、並びに同ケーブル対応のスイッチングハブのご使用をお勧めします。

ご利用のネットワーク環境によっては、データの転送に遅れや輻輳処理が生じる可能性があります。この場合、以下のような対策で、改善を試みて下さい。

- 1) リピーターハブを使用している場合には、スイッチングハブに交換する
- 2) ブロードキャストパケットをできる限り減らす
- 3) できる限りルーターを経由しない通信経路で用いる

遠隔地に設置した場合など、低速な経路を挟む場合にはサンプリングレートを下げてください。

LX-10L/20L の Ethernet I/F では TCP のコネクション持続型通信を行っていますが、180 秒程度に渡り通信相手からパケットが到着しなかった場合には、タイムアウトによる自動切断を行います。このため、PC のハングアップやケーブルの切り離し等、不測の事態により正常終了できなかった場合には、180 秒程待ってから再接続を試みて下さい。

LX Navi 使用中に PC がスタンバイ状態に入ると通信が途絶えてしまうため、タイムアウトによりコネクションが切断されてしまいます。長時間ご使用になる場合には、Windows の電源オプションでシステムスタンバイを「なし」に設定して下さい。

LX-10L/20L の Ethernet I/F では DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) クライアントとして動作させることができますが、起動後 30 秒以内に IP アドレスを取得できなかった場合には、固定の IP アドレスで通常の動作を開始します。

お使いの PC にファイアウォールやウイルスチェック等のソフトウェアがインストールされている場合、接続できない場合があります。その時には、ソフトウェア側のセキュリティレベルを確認して下さい。

その他、IP アドレスのパラメータ設定やネットワークの利用については、ネットワーク管理者様にご相談の上ご使用下さい。

プログラムの起動

プログラムの起動

インストール終了後、PC と LX 本体を接続し LX Navi を立ち上げます。

LX Navi と、大量にメモリーを使うアプリケーションソフトとを同時に実行しないで下さい。

次の手順で LX Navi を立ち上げて下さい。

1. LX 本体の電源スイッチの上側を押します。

電源を入れると自動的に入力アンプを校正します。校正中は入力アンプの LED が点滅し、校正が終わると消灯します。

入力アンプの LED が消灯したら、

2. LX Navi を起動します。

LX-10/20 の場合、LX Navi を立ち上げてから LX 本体の電源を切ったり、ケーブルを抜いたりすると、LX Navi はエラーメッセージを出して終了します。その場合は電源を再度投入し、接続し直してから LX Navi を再起動すると、LX 本体をふたたび認識することができます。

LX-10L/20L では、LX Navi の使用中に LAN ケーブルを引き抜いた場合 LX-10L/20L との通信フェーズが停止してしまうだけでなく、ネットワーク上の輻輳処理を引き起こす要因ともなります。LX-10L/20L をネットワークから切り離す場合には、必ず接続しているアプリケーションを終了してから行って下さい。同様に、LX Navi 起動中には LX-10L/20L 本体の電源を切らないで下さい。

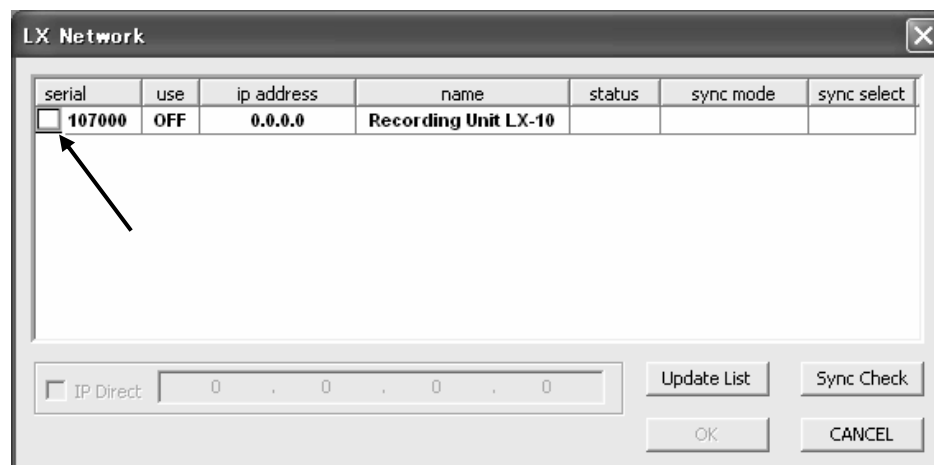
LED が消灯するまでの時間が異常に長いときは

本体の電源を入れてから入力アンプの LED が消灯するまでの時間が異常に長い場合は、アンプが認識されていないことがあります。その場合は電源を入れ直して下さい。

PC をスリープモードにしない

LX Series を制御する PC はスリープモードの設定をオフにして下さい。スリープモードになると付属ソフト LX Navi でエラーが発生します。スクリーンセーバーや電源オプションはスタンバイ「なし」の設定にしてお使い下さい。ノート PC によっては液晶画面を閉じるとスリープモードになるものがありますので、ご注意下さい。

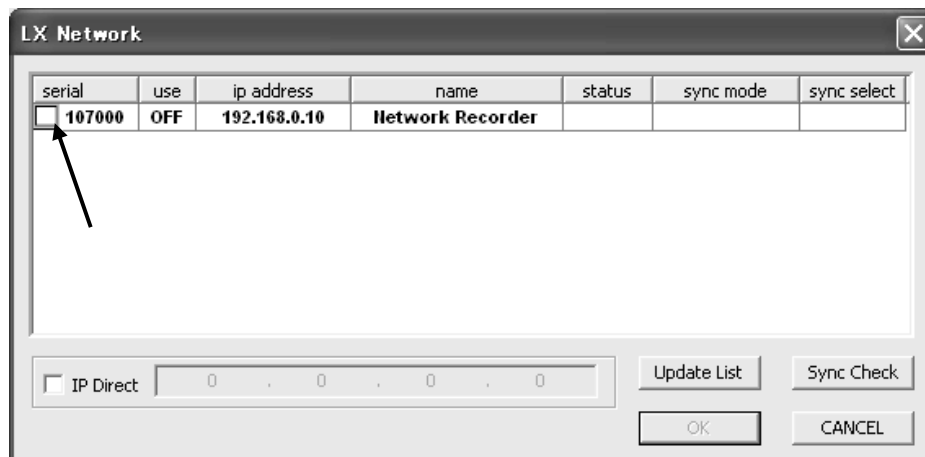
LX-10/20 IEEE 1394 バージョンの場合



LX Network ダイアログが表示されたら、接続対象の LX 本体のシリアル番号が正しく表示されていることを確認して、**serial** のフィールドにあるチェックボックスをクリックしチェックマークを付け、**OK** をクリックします。なお前回実行したシリアル番号の機械には、自動的にチェックマークが付けられています。

LX-10L/20L LAN バージョンの場合

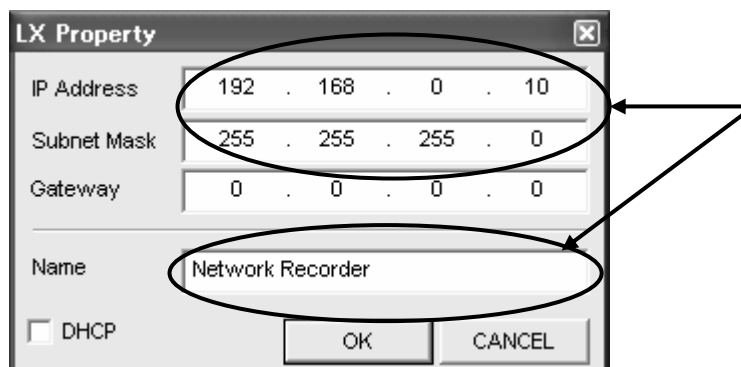
LX Navi 起動時には次のようなダイアログボックスが表示されます。



LX Network ダイアログが表示されたら、接続対象の LX 本体のシリアル番号が正しく表示されていること、かつ **serial** のフィールドにあるボックスが白抜き表示となっていることを確認して、チェックボックスをクリックしチェックマークを付け、**OK** をクリックします。なお前回実行したシリアル番号の機械には、自動的にチェックマークを付けられています。

チェックボックスが白抜きになっていない場合は、次ページの内容に沿って確認して、適切な設定を行って下さい。

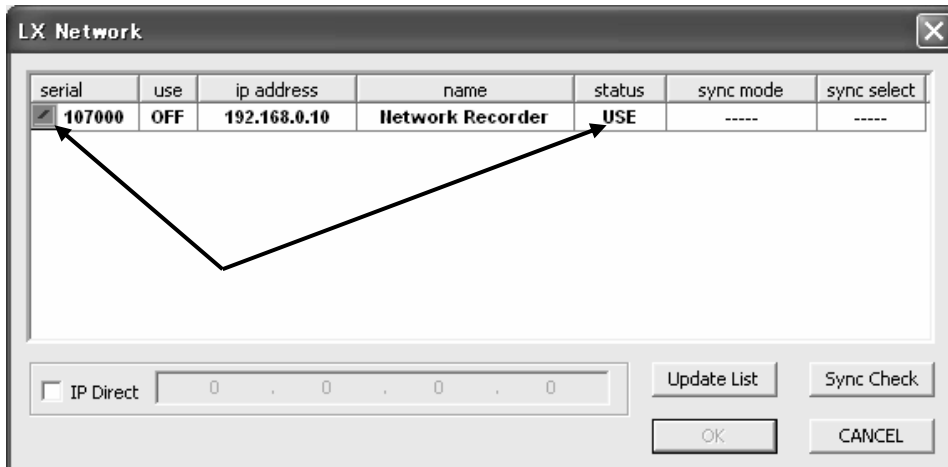
ダイアログの上部は同一セグメント内に存在する LX-10L/20L のリストです。リストの **ip address** か **name** が表示されている部分をクリックすると **LX Property** ダイアログが表示され、IP アドレスのパラメータやレコーダ名(**Name**)などの設定が行えます。ご利用のネットワーク環境に合わせて IP アドレスパラメータの設定を行って下さい。**Name** は半角 32 文字までお客様が任意に設定できる文字列で、起動時のリスト表示にも反映されますので、複数台から目的の LX-10L/20L を識別する場合にご利用下さい。



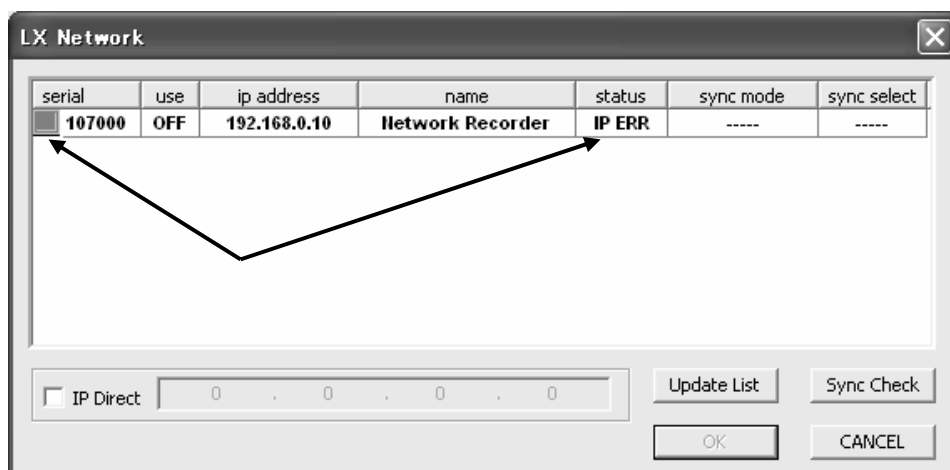
OK ボタンをクリックしてアドレスパラメータを LX-10L/20L にセットした場合、LX-10L/20L 自体の再起動は必要ありませんが、実際に変更が反映されるまで数秒を要しますので、5 秒以上待ってから、接続を行って下さい。また、リストが更新されない場合やリストから消えた場合には **Update List** ボタンをクリックして、リストを更新して下さい。

プログラムの起動

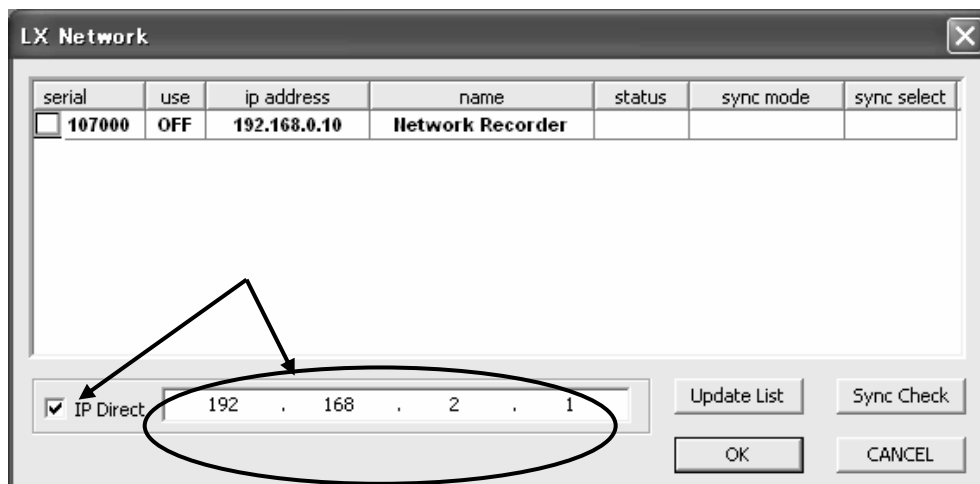
すでに他の PC から使用されている場合には、赤色のチェックマークと共に **status** のフィールドに **USE** が示されます。この時、対象機器への接続はできません。



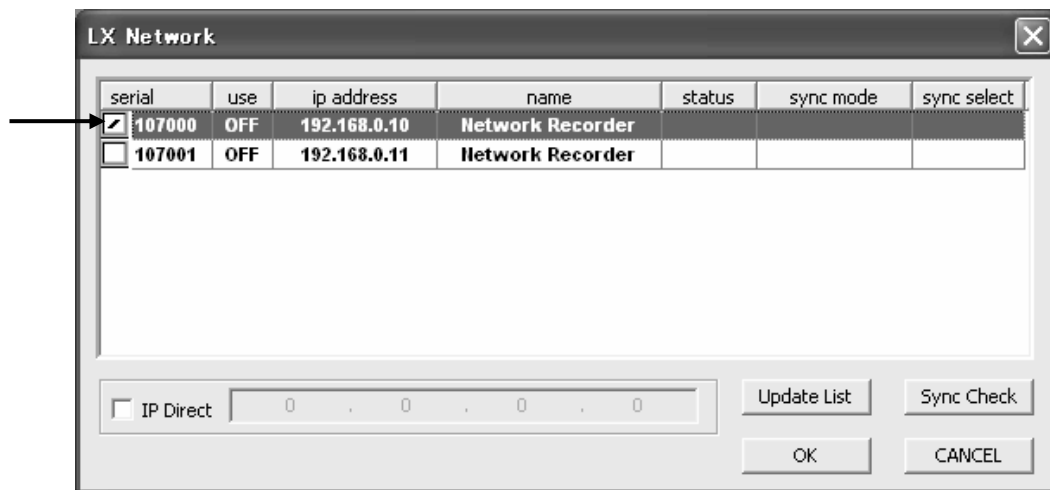
同一セグメントとして正しくない IP アドレスなど、TCP 接続できない場合にはグレーのチェックボックスと共に **status** のフィールドに **IP ERR** が示されます。この場合、適切な IP アドレスの設定をしてから接続を行って下さい。LX-10L/20L の IP アドレス設定と、接続する PC の IP アドレス設定(サブネットマスク、ゲートウェイ設定など)に矛盾がないことを確認して下さい。



ルーターを超えるなど、異なるセグメントに存在する LX-10L/20L に接続する場合には、下部の **IP Direct** チェックボックスをクリックしチェックマークを入れ、接続先アドレスを入力してから **OK** をクリックして下さい。



同一セグメント上に複数の LX-10L/20L が見つかった場合には次のように表示されます。この場合、接続を行う機器のチェックボックスにマークをつけて **OK** をクリックして下さい。



LX-10L/20L の場合、リアルタイム PC レコーディング(リアルタイムで PC において、収録設定によっては単位時間あたりの収録量に対して、転送が追いつかない場合があります。このとき、本体のメモリバッファには未転送データが蓄積され、バッファに空き領域が無くなった時点で自動的に記録動作を終了します。PC の仕様やネットワークのトラフィックにもよりますが、以下の収録設定はリアルタイム PC レコーディングには不向きですので、予めご了承下さい。

サンプリング周波数 96 kHz × 8ch(メモ音声 ON/OFF 共)

IEEE 1394 か LAN かに関係なく、1 台の PC で同時に複数の LX Navi を起動した場合、波形画面の表示色やフォルダの設定など、一方の LX Navi から保存された設定内容が他方の LX Navi に波及する場合があります。これは LX Navi が利用する保存領域が共通なためで、予期せぬ事態を引き起こす可能性がありますので、1 台ごとにそれぞれ異なる PC でご使用になることをお勧めします。

接続が正しく完了すると LX Navi が起動し、メイン画面が表示されます。

「第 3 章 LX Navi 入門」を参照して下さい。

プログラムの起動

LX Network ダイアログを表示せず直接 Navi を起動する

下記の方法を参考に LxNavi を起動するときに “ /D” オプションを指定してください。前回起動したシリアル番号の LX が I/F 上に接続されている場合、LX Network ダイアログが表示されず直接、Navi が立ち上がります。前回起動したシリアル番号の LX が I/F 上に接続されていない場合は、LX Network ダイアログが表示されます。

(例1) LxNavi のショートカットのプロパティを開き、リンク先の指定にオプションの “ /D”を追加指定する。

リンク先 "C:¥Program Files¥TEAC¥LX Navi¥LxNavi.exe" /D



(例2) [スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行...]を選択し、実行する LxNavi.exe を指定しその後ろにオプションの “ /D” を指定した後、[OK]ボタンを押してください。

名前 "C:¥Program Files¥TEAC¥LX Navi¥LxNavi.exe" /D



メディアの挿入とイジェクト

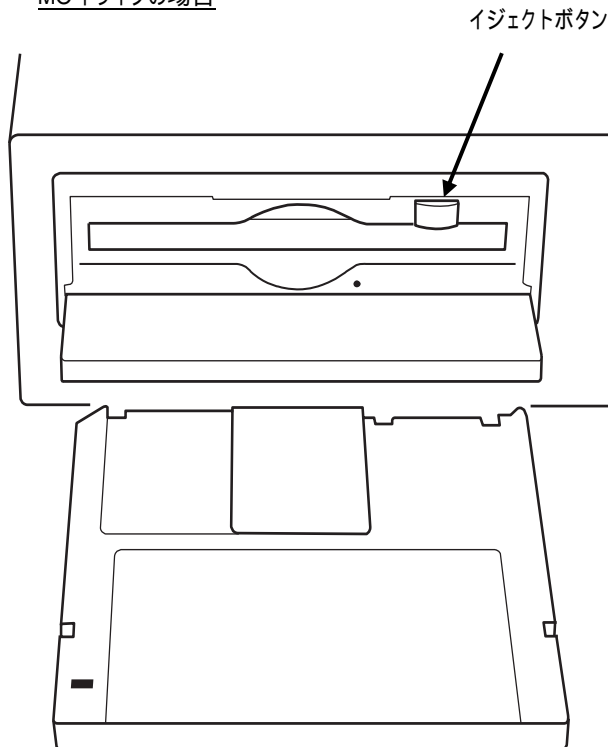
メディアの挿入

メディアの挿入および取り出しは、必ず REC モードの STOP 状態で行って下さい。

PC カードの場合、静電気によるデータ破損を防ぐため、本製品に触れる前に必ず身近な金属に手を触れて身体の静電気を取り除くようにして下さい。また、記録中や再生中は PC カードスロットの中のメディアに触れないで下さい。

1. LX 本体の電源を入れます。STOP ランプが点灯したら、
2. ドライブのふたを開けます。
3. メディアのラベル面を上にしてメディアをスロットに挿入します。
4. ドライブのふたを閉じます。

MO ドライブの場合



指定のメディアをご使用下さい

MO

富士通(株)製の容量 1.3GB の 3.5 インチ MO を使って下さい。これ以外の MO では正常に記録・再生できないことがあります。

PC カード

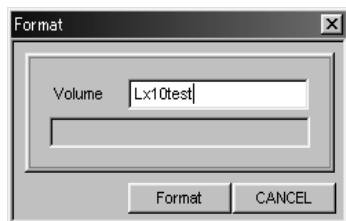
本体の記録性能を保証するため 1-6 項に記載された動作検証済みの PC カード^{*} を使って下さい。

メディアの挿入とイジェクト

メディアのフォーマット

MO

指定 MO は未フォーマットです。フォーマットしないと MO ドライブに挿入しても記録デバイスとして認識されず、記録できません。フォーマットするには LX Navi の **File** メニューから **Format** を選択します。ボリューム名をタイプし、**Format** をクリックして下さい。



PC カード

LX Navi の **File** メニューから **Format** を選択します。または、PC 上で FAT16 にフォーマットして下さい。
FAT32 でフォーマットされた PC カードには対応していません。PC 上で FAT16 にフォーマットしてからご使用下さい。


メディアのイジェクト

メディアを取り出してから電源を切る

LX 本体の電源を切る前にメディアを取り出して下さい。もし書き込み中に電源を切ると、そのメディアに記録したデータを読めなくなることがあります。また、メディアを挿入したまま LX 本体を持ち運ぶと故障の原因になります。

メディアの挿入および取り出しは、必ず REC モードの STOP 状態で行って下さい。

PC カードの場合、静電気による破損を防ぐため、本製品に触れる前に必ず身近な金属に手を触れて身体の静電気を取り除くようにして下さい。また、記録中や再生中は PC カードスロットの中のメディアに触れないで下さい。

1. ドライブのふたを開けます。
2. MO の場合、LX Navi でツールバーの  ボタンをクリックします。MO が出ます。
PC カードの場合は、ドライブのイジェクトレバーを押して下さい。PC カードが出ます。
3. メディアを引き出します。
4. ドライブのふたを閉じます。

MO の場合、LX Navi が立ち上がっているときはドライブ本体のイジェクトボタンは効きません。

記録中、読取り中にはメディアのイジェクト操作は絶対に行わないで下さい。データが破損します。

メディア内のデータについて

メディアに記録したデータは PC の MO ドライブや PC カードスロットで TAFFmat ファイルとして認識できますので、そのまま市販の解析ソフトウェアで読み込めます。

ただし、MO を PC のドライブに入れるときは、ライトプロテクトしてから入れて下さい。もしライトプロテクトせずに、ファイル操作でファイルやフォルダを削除、移動したり、名前を変更したりすると、データファイルとヘッダファイルとのリンクが失われて PC でデータを読み込めなくなります。また、MO をふたび LX 本体に入れたときにデータを読み込めなくなります。

拡張ユニットについて

拡張ユニット AU-LXEPIO(DC アンプ/出力アンプ用)、および AU-LXEPIOP(PA アンプ/ST アンプ/出力アンプ用)増設時に可能な入力アンプ、出力アンプの組合せ例は以下のとおりです。

入力 16 チャンネル + 出力 16 チャンネルの場合

(上のスロットから)

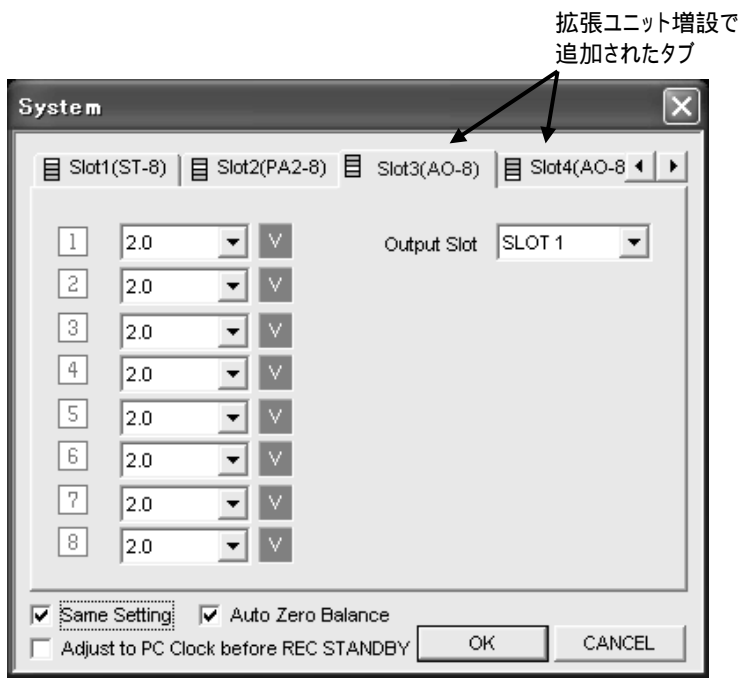
- スロット 1: 入力アンプを実装
- スロット 2: 入力アンプを実装
- スロット 3: 出力アンプを実装
- スロット 4: 出力アンプを実装

入力 32 チャンネルの場合

全スロットに入力アンプを実装します。

各スロットの設定について

拡張ユニットを増設すると LX Navi の **System** ダイアログにタブが追加されますので、それぞれのタブで設定します。

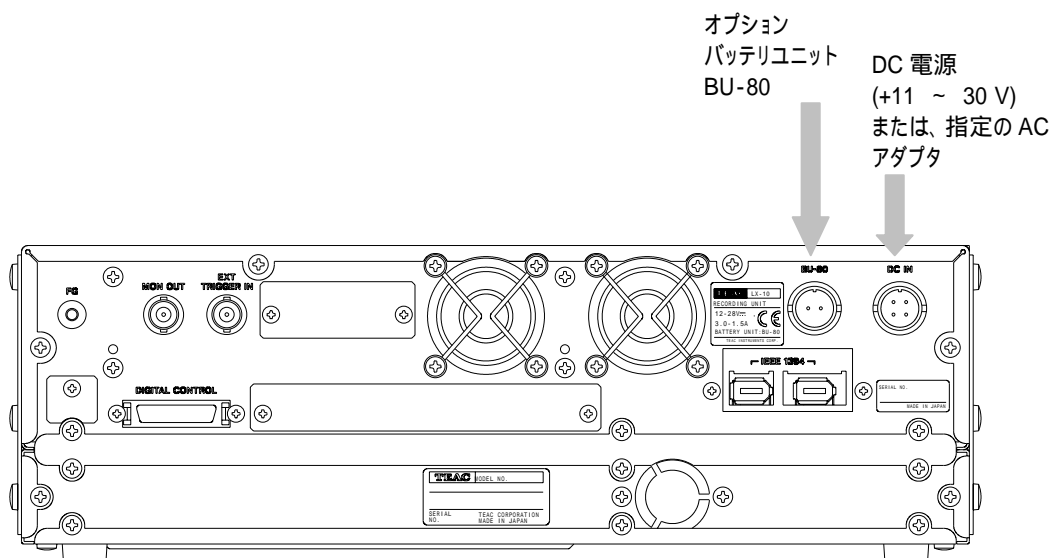


拡張ユニット使用時のサンプリング周波数の上限について

記録チャンネル数	メモリー記録	メディア記録(MO/PC カード)
2 ch	96 kHz	96 kHz
4 ch	96 kHz	96 kHz
8 ch	96 kHz	48 kHz
16 ch	48 kHz	24 kHz
32 ch	24 kHz	12 kHz

電源の接続について

LX 本体 + AU-LXEPIO



LX 本体 + AU-LXEPIOP

